

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立新田小学校
(令和2年2月12日作成)

1 学校教育目標	
生き生き元気 伸び育つ新田っ子 ～よく学ぶ子・思いやりのある子・たくましい子～	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・草加っ子の基礎・基本の定着 ・信頼され、潤いと特色ある教育活動の推進 ・報告連絡相談の徹底と開かれた学校づくりの推進・研修の充実 ・安心安全教育の推進 ・清潔で美しい教育環境の整備 	成果 ○ 各担当が、研修した内容を全教職委員で共通理解し、指導することで、学力向上の成果を上げた。 課題 ● 研修内容や各種取組を徹底することでさらなる学力面・規律面の向上を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	○学校経営方針に基づき、部会・企画・職員会議での協議を経ているため、時間のロスなく提案内容を検討することができた。 ●校務分掌組織の改善と負担の分散化を図る。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	○本発表に向けて授業研究を中心に研修会を実施し、毎回課題を明確に教員の授業力向上を図ることができた。 ●幼保小中連携の強化と研修会の工夫改善を図る。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○校内の事故防止に向け、安全指導や保健指導を計画的に行うことができた。修繕が必要な箇所は速やかに修繕し、瑕疵による事故0を継続することができた。 ●反省に基づく危機管理マニュアルの更なる改善を図る。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	○倫理確立委員会等を通して、情報漏洩や個人情報の管理について職員の意識向上を図り、個人情報に関し事故0を継続できた。 ●個人情報に関する安全管理の徹底を図る。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	○学校・学年だよりやHPを通して、計画的に地域や保護者に情報発信することができた。体育朝会の公開を継続したことで、さらに体力向上への意識が高まった。 ●学校応援団の充実を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	○保育園や幼稚園との交流給食やどんぐりフェスティバルでの交流を通して、目指す子ども像の実現に向けた取組の充実を図ることができた。 ●幼保小中一貫教育のより一層の具現化に向けた教育課程の編成を行う。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じた教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で週間の学習予定表を作成・配布することにより計画的に授業を進めることができた。学期毎に部会を開き教育計画の改善を図ることもできた。 ●新学習指導要領を踏まえた教育課程の作成。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会を計画的に実施したことで、わかる授業をイメージしながら、指導方法の工夫や評価の工夫について改善策を検討することができた。 ●新田小学力向上プランの工夫・改善を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」の実践に向けて授業研究を実施した。指導方法の改善、生活に生きる道徳について研修し、実践力を高めることができた。 ●評価方法について充実を図る。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 事前にALTと綿密な打合せを行うことでねらいに即した授業を進めることができた。 ●5・6年の外国語、3・4年の外国語活動の完全実施を受け指導の工夫・充実を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や縦割り活動を通して児童の所属感や達成感を味わわせ、学年学級経営の充実を図ることができた。 ●代表委員会を中心とした取組を徹底する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の充実を図りながら、計画的に実施することができた。 ●新田小の実態に即した年間指導計画の工夫・改善を図る。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導委員会で児童の現状について情報交換を行い、必要に応じて組織で対応することができた。 ●あいさつ・黙動清掃・廊下歩行について指導の充実を図り、新田小の伝統を大切にすることを育む。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を中心に自分の将来について「考え・調べ・深める」指導を行うことができた。 ●進路指導を含め、中学校との連携の充実や外部講師の活用を図る。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画をもとに個に応じた指導を進める事ができた。ユニバーサルデザインの趣旨を生かした学級経営を少しずつ浸透させることができた。 ●ユニバーサルデザインの趣旨を生かした授業の充実を図る。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる読み聞かせ、図書室の充実、各種イベント、図書便りの充実により図書に親しむ児童が増え、心豊かになってきた。 ●読書量の増加及び読み取る力の育成を図る。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で授業にICT機器を使用したことで、学習内容に対して興味関心が高まり学習意欲の向上に繋がった。 ●情報モラル教育の充実を図る。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育週間を設定し人権についての授業で児童個々の人権尊重意欲を高めることができた。 ●児童一人ひとりに人権感覚を身につけさせるため、継続的な指導と授業開発を行い工夫改善する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	⑫校内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研修体制の確立 ・授業研究会の計画的な実施 ・校内の環境整備 ・研究発表 	A	<p>○算数科を中心に計画的に授業研究会や指導案検討を行い、教員個々の授業力の向上を図った。研究発表に向け実践的な指導力が向上した。</p> <p>●実践している『まなびのプロセス』を活用することで他の教科等の授業に応用し、全校的な学力向上の手立てとする。</p>
	⑬体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の充実 ・継続的な体力向上への取組 	B	<p>○さわやか運動や体育朝会の充実により主体的に運動する児童が増えている。</p> <p>●運動する事が好きな児童を増やすことができる取組の工夫や環境整備を図りにより体力の課題を克服していく。</p>
	⑭豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・道徳教育の充実 	B	<p>○代表委員会や各学級でのあいさつ運動や地域の方々とのあいさつ運動により、登下校時に自然と元気よくあいさつできるようになった。</p> <p>●自らあいさつしたくなるような仕組みにより学年で声の大きさに差がある課題を解決していく。</p>

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育朝会で学期毎に保護者公開の綱引きやドッジボール、大縄8の字大会を実施したり、サテースクールに授業参観懇談会や校内持久走大会を実施したり工夫したことによって、学校は適切に公開していると思う保護者が、多くなった。 ○ 高学年で一部教科担任制を実施したため、学級の枠を越えて児童を育てることができた。 ○ 教育相談日を設けたことで保護者からの相談も受けられる環境をつくることができた。また、いじめ撲滅委員会を立ち上げ外部からの有識者を招きいじめゼロで安心安全な学校運営を目指している。 ○ 算数の研修を通じて児童一人ひとりの学力向上に向けた指導方法や評価方法の工夫改善を図ることができた。 ○ 図書室の環境整備や各学級で読書活動を推進したことで、読書に意欲的に取り組む児童が増え10000冊以上の貸出となり2年連続増加している。 ○ 新田中学校区で家庭学習強化週間を学期毎に設定し保護者に家庭学習の意義を理解していただいた。幼少期から連続した家庭学習の習慣を定着させることができた。
<p>6 次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科・領域の学力向上プランを見直し、さらなる学力向上の手立てを整える。 ○ 各学力テストの分析とその後の授業改善を効果的に行い、児童の学力向上と教員の指導力向上を図る。 ○ 幼保小中一貫教育を推進するため情報の共有化に努め、授業における一貫性を意識していく。また、行事等の精選を計り、より効果的な連携を目指す。 ○ 外国語や外国語活動の授業実施に向けて乗り入れ授業教員やALTと協力して楽しく学びながら先の学習を意識した授業の工夫改善を図る。